

高城城(亀城, 伊佐早城, 諫早城) (県史跡) (長崎県諫早市高城町) (諫早公園)

15 世紀に西郷氏が築いたもので高城城(たかしろうじょう)と呼ばれていた。のち龍造寺氏が入城して諫早氏を名のり居城としていたが、2 代のとき取り壊され、城としての姿を失った。1918 (大正 7) 年に公園として整備され、現在 1 万本ものツツジの公園として知られている。本丸跡には高城明神・藤原明神が祭られている。

Wikipedia による

高城跡 (高城址、城山公園) は宮崎県 児湯郡 木城町 大字高城 3760-1 にあります。

「高城城跡 (町指定文化財)」の説明板から、

高城城跡は、小丸川とその支流である切原川に挟 (はさ) まれ、標高 60 m を数えます。地形は、舌状に細長く伸びる台地であり、見晴らしには大変優れたところに営まれた山城であります。

この城では、天正 6 年 (1578 年)、天正 15 年 (1587 年) の二度にわたり大合戦がありました。その当時、日向で勢力を誇っていた伊東氏が島津氏に負けて大分に逃げ、親類の大友氏を頼ります。大友氏はこの際、新興勢力の島津氏をつぶそうと、約 5 万の大軍でこの城を攻撃しました。しかし高城城主 山田新介有信 (やまだしんすけありのぶ) はわずかな兵力でよく防ぎ、とうとう大友軍は大敗しました。これを高城川合戦と呼んでいます。この合戦が原因で、今度は豊臣秀吉の弟 秀長 率 (ひき) いる 15 万の大軍と合戦することになりますが、この時も山田新介はよく防ぎ、この城は落城しませんでした。

これらの戦いは、戦国時代の九州において最大規模の合戦であります。またこの高城は、その 2 度の戦いとも落城しなかった難攻不落の名城として、名将、山田新介有信の名と共に語り継がれています。

城としての特徴は、現在、城山公園として利用されている箇所が、東側の主郭 (しゅかく) と考えられる曲輪 (くるわ、平らなところ) と考えられています。ここでは島津氏の家臣であった城主、山田新介有信らが、戦いに備えるための本部として利用していたと考えられます。またこの城に敵が侵入することを防ぐために、7 箇所の堅堀 (たてぼり) がみられるのが特徴です。当時の山城ではこういった自然地形を利用して、幾多の戦いを繰 (く) り広げております。

平成 4 年度には、木城町の城山公園整備事業によるメロディ時計台建設に伴い発掘調査が実施されました。その結果、堅穴状遺構、柱穴、石列、などの遺構、土師器 (はじき)、と言われる杯、皿、小皿、青磁器、白磁器、陶器などの遺物が確認されました。これらの遺物の時期は、戦いが繰り広げられた時期に該当 (がいとう) し、当時の戦いの状況をよく理解することができます。

この高城は、建武 2 年に島津時久が足利尊氏から新納院を与えられて、城を築き、姓を新納と改めました。その後、高城は新納土持氏の城となりましたが、長禄元年に土持景綱が都於郡城主 伊東祐堯に敗れて、高城は伊東氏の城となりました。この高城 (木城町高城) は、宮崎市 (宮崎市 高岡町 穆佐 (むかさ)、高木兼寛誕生地のところ) にある穆佐城 (むかさじょう)、月山日和城 (都城市高城町大井手字横馬場) とならんで日向三高城の一つです。

「高城跡」にある新納観音 (にいろかんのん) 説明石碑から、

天正 6 年 (1578 年)、先に島津義久に破れ、大友宗麟 (そうりん) を頼った伊東義祐 (よしすけ) を助け、さらに九州を征せんと、大友宗麟の 5 万の大軍が山田新介有信 守るこの高城を包囲した。堅く守り落城せず、大友軍は川南台地 (北距離約 700 m の台地) に 5 つの陣を、島津軍は茶臼原台地 (南距離約 3 km の台地) に 3 つの陣を構え対峙 (たいじ) していた。

11 月 12 日黎明 (れいめい)、大友の先鋒 田北鎮周、佐伯宗天、吉弘鑑理、斉藤鎮実、角隅石宗、佐伯惟定など谷瀬戸川 (切原川) を渡り偲月の備えで島津軍を襲う。魚鱗の備えの島津軍は本田親治、北郷

蔵人を前軍とし高城川（小丸川）を背に高城河原に構え撃つ。 両軍の先鋒激突、打ちつ討たれつ鐘（かね）、太鼓（たいこ）天に震い、関（とき）の声地を動かす。 島津 先鋒崩（くず）れ本田親治 戦死、続いて北郷蔵人 討死す。 緒戦 大友軍は大利を得て島津軍を追い込む、川しも柳の瀬の兵庫頭義弘、上流 右馬頭征久の伏兵一斉に立ち大友軍を挟撃し混乱の極に陥（おとしい）れ、さらに山田新介 城門（高城の）を開き追撃す。 義久、忠棟も馳（は）せ参じ、島津軍は地の利を用い大友軍をだけが淵（ふち、小丸川の深いところ）に追い詰める。 大友軍は淵に脚を取られ溺（おぼ）れる者多数、佐伯宗天 父子、田北鎮周、角隅石宗など討死す。 大友軍破れ北に走る。 島津軍の追撃きびしく、名貫原、百町原から耳川（美々津川）にいたる7里の間大友軍の倒れるもの1000数余りという。 また耳川の淵（ふち）に溺れしもの数多く夕闇（やみ）せまり島津軍の追撃も止まった。 始め島津軍 高城にひくときこの耳川にて一戦があり、これらを含み耳川合戦ともいう。

天正15年（1587年）、先の戦いで大友軍を破った島津軍は北上し豊後（大分）にせまり九州の大半を征する勢いとなる。 大友宗麟 豊臣秀吉に援を求む。 秀吉は島津義久に使者を送り領地の返還をもとむ。 義久聞き入れず、秀吉軍を起し九州を征せんと自ら肥後口に、豊臣秀長（秀吉の弟） 日向口より島津を攻める。 島津義久は豊後（大分）より都於郡城（とのこうりじょう、西都市）にひき、山田新介 高城に籠（こも）る。 秀長は先の合戦の大友の本陣 松山を本陣とし、51ヶ所に陣地をつくり高城を包囲す。 山田新介しきりに援軍を求む。 豊臣秀長は根白坂（茶臼原台地の椎木坂）に宮部継潤、蜂須賀家政を配し、堀を構築し防御させる。 西台地に尾藤知定、東台地に黒田孝高を配し、島津の援軍に備（そな）える。 旧4月17日（5月24日）義久は根白坂を一気に征し、秀長の本陣を突かんと左翼 北郷一雲、右翼 伊集院忠棟を先鋒とし、宮部軍すでに夜襲をかける。 宮部軍すでに夜襲を察知し堀を深くし、柵（さく）を堅くし待つ。 島津軍死傷を顧（かえり）みず肉薄す多くの数100余の将卒を失う。 島津軍左翼を一部突破するも連携なく、藤堂高虎、黒田、小早川の軍も来て助け、島津軍破れ夜明けとともに民家に火を放ち都於郡（とのこおり、西都市）にひく。 山田新介の高城は落ちず、義久は秀吉と和して、ようやく山田新介 高城を開き降りる。 ここに九州は秀吉によって平定された。 この高城の城は天正6年、15年の天下を分ける2大激戦にも死守され落城しなかった堅固な記念すべき城である。

「宮崎観光と宮崎の山」による





日本の歴史公園100選【諫早公園】

